

湧心館高等学校 (通信制) 令和 5 年度 (2023 年度) 学校評価表

1 学校教育目標
<p>基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解をもって、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間性）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。</p> <p>また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。</p>

2 本年度の重点目標
<p>1 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む</p> <p>(1) 主体的・対話的で深い学びの中で、思考力、判断力、表現力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養う。</p> <p>(2) 生徒一人一人に応じた指導・支援を実践し、学力の基礎・基本を定着させる。</p> <p>(3) 望ましい勤労観・職業観を育成し、一人ひとりに応じた進路指導を行う。</p> <p>2 道徳性と豊かな情操を育む</p> <p>(1) 心に響く多様な指導を通して命を大切にする心や他者を思いやる心を育む。</p> <p>(2) 規範意識を身に付け、善悪を判断し、自ら律する力を育む。</p> <p>(3) 我が国と郷土の歴史や文化・伝統を尊重する態度とグローバルな視点を育む。</p> <p>3 心身の健康と自己を管理する態度を養う</p> <p>(1) 基本的な生活習慣と正しい食習慣を身に付けさせる。</p> <p>(2) 運動に親しむ態度を育み、体力を向上させるとともに、豊かなスポーツライフを実現・継続するための資質・能力を育む。</p> <p>(3) 生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質・能力を育む。</p>

3 自己評価総括表						
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	○成果と●課題
学校経営	カリキュラムマネジメントの実践	スクールミッション及び重点目標が示す「資質・能力」の育成	・重点目標及びスクールミッションの達成に向けて全方位的に教育活動に取り組む。	・各部の業務実施計画とスクールミッション及び重点目標との関連を明確にする。(目標・目的・内容) ・教育目標具現化に向けた研修実施。	B	○スクールミッションで示した「自己管理能力」の育成を職員が意識、生徒も「自己管理能力が身に付いた」という認識が増えた。 ○教育目標「確かな学力の育成」の取組としてレポート及び面接の工夫にあわせて学習会を中心に丁寧な指導に取り組んだ。 「探究活動の充実」の充実のため外部講師の招聘及び視察を実施した。
		選択の幅を広げる教育課程の編成	学校設定教科及び新教育課程導入を滞りなく進める。	・学校設定科目と新教育課程に対応するレポートを作成改良する。 ・新教育課程用受講マニュアル改善。		B

学校 経営	教育目標 の具現化 に向けた 学年経営 -協力校-	1年教育活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・通信制の生活と学びに慣れさせる。 ・生徒理解の推進 ・進級率を65%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会等で生徒の情報を共有する。 ・生徒への声掛けを積極的に行い、学習や生活面で保護者とも連携する。 ・担任面談・連絡の徹底、学習支援の充実。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な生徒には個別の支援計画を作り、定期的に生徒・家庭へ連絡をするなど、個に応じた支援を行った。学習会への参加を積極的に呼びかけ、ほとんど毎回10人以上出席して頑張った。郷土のことを知り、少しでも資格取得に興味を持たせるため、水検定を実施した。1月25日現在の進級予定率が72.2%で目標を上回った。 ●なかなか登校できなかつたり連絡が取れなかつたりする生徒が各クラスに複数名おり、レポート提出ができず、単位を修得できなかった生徒も多くいる。
		2年教育活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の醸成 ・2年次進級率80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面談を適宜実施し、学習・進路・生活指導の中から規範意識を醸成し、学習活動の活性化につなげる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○担任面談を実施し、生徒の学習・進路・生活指導を行った。 ○支援が必要な生徒に対して個別の支援計画を作成し、登校できない生徒に対して、電話で様子を伺い、個に応じた支援を実施している。 ●レポート、スクーリングなど全く活動をしなない生徒が一定数いる ○現段階で進級可能な生徒は.81%である。
		3年教育活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現 ・3年次進級率を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者との面談や連絡を密に行い、進路希望に応じた指導を適切に行う。 ・卒業、進級のためにレポート提出に遺漏がないよう注意喚起する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒や保護者に必要に応じて連絡を取り、個に応じた指導を行った。また、問題を抱える生徒には学年間で情報を共有し、連携して解決にあたった。 ○進路希望は丁寧に面談を続け、多くが希望通りの進路に進んでいる。 ○進級率は88.5%の予定
		4年教育活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現 ・4年生卒業率を75%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解を深め個々に応じた指導および支援を行う。 ・進路については三者面談等を通して保護者との共通理解を図る。 ・早期のレポート提出を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な生徒には個別の支援計画を作り、なかなか登校できない生徒には定期的に電話連絡をするなど、個に応じた支援をしている。 ○進路指導は生徒の希望を聞き取り、個別に対応している。 ○前期卒業予定者8名のうち4名が卒業することとなった。 ○卒業予定者76名のうち61名が卒業予定である。(79% R 6.1.25 現在) ●登校できなかつたり連絡が取れなかつたりする生徒が複数名いる。早期のレポート提出を促すも、実行できない生徒が多い。
		協力校教育活動 の充実 ・鹿本協力校	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーリング日に面談を頻繁に実施し、学校説 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○進路相談は、協力校スクーリング日に実施できた。3修生は本校でのスクーリング日に行っ

学校 経営		<ul style="list-style-type: none"> ・天草協力校 ・芦北協力校 ・人吉協力校 	<ul style="list-style-type: none"> ・進級率75%とする 	<p>明会で得た詳細情報を説明し伝える。</p>	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進級率は79.1%であった。 ●学校説明会の情報をタイムリーに伝えることに苦労した。
	広報・募集活動の推進	<p>本校通信制教育のシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色等の周知徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期（新入学・転編入学等）入学者数の現状維持を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学及び個別の学校説明会を実施する。 ・上記案内を県内高等学校・中学校、特別支援学校中等部へ配布する。 ・HPや『凶南』を活用した広報を充実させる。 ・電話質問等には丁寧に対応する。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験入学及び学校説明会の案内を、県内中学校及び高校へFAX送信した。結果、前期体験入学及び学校説明会には123組が参加した。後期体験入学及び学校説明会には109組が参加した（2月1日現在）。本校のみならず、協力校での説明会にも応じた。後期の学校説明会の実施形態を変更し、職員には好評のようである。 ●HPの更新は月2回ほどで、頻繁に更新ができなかった。
	業務改革	P D C A サイクルの実践	<p>業務毎や年度末反省を業務改善につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期時点で学校評価の成果と課題を洗い出し、下半期につなげる ・年度末反省を計画的に進め、次年度改善案を具体化し実践する。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○9月末に学校評価の中間評価を実施。これにより、下期に向けた取組の充実につなげることができた。 ○業務改善について改善案および実践行動について共有のフォルダに書き込めるようにして協議を進めて改善しやすくなった。
		教職員のICT活用指導能力等向上	<p>全職員がICTを活用した会議や情報発信ができることを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議や集会において、Google Meet等を利用した配信を全職員が実践できるようにする。 ・Google Classroom等を利用したペーパーレス化に努める。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT研修を重ね、活用の機会を設定したことで、協力校への遠隔授業配信など全職員が配信できるようになった。 ○ペーパーレス化実現した業務 <ul style="list-style-type: none"> 1) 健康観察Classroomを活用 2) 毎朝の朝会要項 3) 回覧や周知する文書
	働き方改革	業務の見通しと効率化	<p>業務に見通しを持ち計画的かつ効率的に業務を進め負担感軽減を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアルや業務引継書を作成する。これにより、業務の効率化を図ると同時に負担感軽減につなげる。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共有フォルダを活用して業務改善を集約した。 ○R4年度末の引継書により、新規の校務分掌担当者の負担感軽減につながった。一部業務になるが、業務内容の見える化につながっている。 ●業務の完全平準化までは至っていない。偏りがある業務がある。
		休暇の取得率向上	<p>年休取得率向上により、心身のリフレッシュを図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メリハリのある働き方を推奨する。 ・衛生委員会を月 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○衛生委員会を月1回実施し、教職員の時間外勤務や健康状況の共通理解を図った。

				1回実施し、教職員の体調等を早期把握し対応していく。	<ul style="list-style-type: none"> ●夏季休暇取得率98.4% ○R5年休取得状況 教諭平均:14.6日 講師平均: 8.5日
学力向上	生徒の「自己管理能力」の向上	レポートの提出率および進級・卒業率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出率を全体で前年度比5%増を目指す。 ・第1回目レポートの未提出割合を前年度より減少させる。 ・全学年の進級率を80%以上とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による丁寧なレポート添削や学習会を活用したレポート作成支援。 ・登校毎に学習状況通知票を配付、生徒の自己管理能力の向上を目指す。 ・学習意欲向上に向け、学習補助資料を学校HPに掲載。NHK高校講座のQRコードも補助資料に掲載。 ・欠席者への資料送付など、学校情報発信を工夫し、周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○レポート提出率は年間通して71.5%である(2月1日現在)。 ●1回目のレポート提出率が86.0%であるので、最初から提出しない生徒が少なからずいる。対策が必要である。 ●前期の単位修得率が74.18%で、昨年度から2.08ポイント下がっている。この数字がほぼ進級率と同じと考えられる。 ○学習補助資料はスクリーングの度に学校HPに掲載した。
	学習会・模擬試験の活用推進	学習会や模擬試験の活用による進級率向上と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> ・資格、検定の受験者及び合格者数において前年度以上を目指す。 ・模擬試験の受験者数において前年度以上を目指す。 ・学習会の活用を通して進学、就職者決定者数の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会「レポート合格コース」で、生徒の質問を受け付け、自力でレポート課題の仕上げが難しい生徒を支援する。 ・学習会「大学受験コース」で、模試受験者に対する過去問対策等の指導を行う。 ・学習会の午後の時間帯を活用し、個別の進路相談に応じる。 ・月に一回キャリアサポーターの前原先生に水曜日に出勤していただき、通信制生徒の就職相談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢検6名、英検9名、食物検1名、消費者検19名受験。 ○1月末までの模擬試験の受験者数はのべ141名。そのうち三課程合同模試(スタディーサポート)を41名受験。 ○大学入学共通テスト申込15名。実受験者9名。 ○1月末までの上級学校合格者38名。(R4は34名)で、前年度を上回っている。 ○キャリアサポーターとの就職相談を生徒3名が利用した。また、就職応募に係る面接練習でも活用できた。 ●一般受験での大学進学希望者に向けた、学力向上を目指した対策は量的・質的に大幅に不足している。さらに、次年度以降は新課程科目に対応した受験対策が必要だが、本校の現状では、教育課程や開講科目の面からも、割ける人員の余裕の面からも対応が困難である。
	確かな学力を育む	主体的・対話的で深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に「学ぶ楽しさ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接授業の際の「問い」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○数少ない面接授業の中で時間に追われ、生徒にじっくり考

	授業改善	の実践	を実感させる知的好奇心の育成につなげる。また、生涯学習の基盤を作る。	により、考えさせる授業を展開する。 ・主体的な学びの育成にむけた観点別評価を実施する。 ・校内研修（模擬授業・実践発表）を実施し、授業全体のレベルUPを図る。	B	えさせる授業を行うことは難しい。自宅でレポートを解く中で、考えさせる工夫が必要であるので、レポートの内容を工夫している。 ●観点別評価は始まったばかりであり、本年度の反省を踏まえさらに工夫していく必要がある。 ○職員が面接授業を公開し、他の教科の職員の刺激となった。さらに実践したい。
		教科横断的な学びの実践	これからの社会に向け、文理融合教育を一步進める	・令和6年度用レポートにおいて、教科横断的な学びを意識した設問等を作成する。	B	●レポート提出の締切が前倒しされたため、作成時間が足りないとの声があったが、期限までに作成できた。教科横断的に意識した問題がどれだけできたかは、今後の検証が必要である。
		ICTを活用した授業実践	実技を伴わない教科で、ICT活用8割を目指す。	・タブレットや実物投影機を使用した授業実践を共有する。	B	○後期に2回のICT研修を行った。電子黒板が全クラスに整備されたので、授業へのICT利用頻度が増えた。
キャリア教育 (進路指導)	進路意識 職業意識の向上	入学時からの計画的・組織的進路指導の実施による生徒の進路意識・職業意識の向上	・進路指導充実のため、進路部主導の業務や企画内容の改善を図る。必要に応じて新たな取組の追加と共に、より効果的な指導のため、企画の精選を図る。	・進路便りや進路室前掲示コーナー、各クラスへの配付物による情報の提供を行う。 ・進路情報収集のため、学校説明会、企業説明会の情報を提供し、生徒、職員ともに参加の機会を増やす。 ・ヤングハローワーク、キャリアサポーターとの連携を図る。 ・通信制大学説明会等の内容を改善する。 ・キャリアパスポート、生徒用面接マニュアル等の内容の充実を図る。	B	○掲示コーナーへのタイムリーな情報開示ができた。 ○進路部以外の職員も説明会への参加の機会が増え、昨年以上に情報収集、生徒への情報提供ができた。 ○通信制の生徒が利用しやすいように、毎月第4水曜日にキャリアサポーターとの就職相談の機会を設けた。 ○通信制大学説明会については、予定した時間内に納まるように事前に学校紹介動画作成を依頼する形式に改め、7月の三者面談の時に必要な生徒・保護者には事前に視聴できるようにした。 ○小規模ながら、キャリアパスポート、生徒用面接マニュアルの内容を吟味し、改訂した。
	進路決定率の向上	生徒の希望に大切にしたい進路実現	新規学卒求人を利用しての就職内定者及び大学等合格者の割合において前年度以上を目指す。	・小論文、志望理由書の指導を充実に向け、職員研修会に参加する。 ・大学受験希望者に向けた指導、助言の機会拡充。 ・生徒のニーズに応じた進路相談、学	A	○小論文対策講座に職員5名が参加した。（進路部4名、進路部以外1名） ○若者サポートステーションと連携し、卒業学年生徒を対象とした自己決定力養成講座を実施した。 ○熊本YMCA学院より外部講師を招聘し、就職・学校推薦での進

				習支援の充実のため、若者サポートステーションやジョブカフェ等専門機関との連携を図る。		学希望者に対する面接マナー指導を実施した。専門家による一斉指導にすることで、内容の充実と卒業学年団職員の負担軽減を図った。 ○若者サポートステーションや県庁労働雇用創生課等の専門機関との情報共有、連携を充実させることができた。 ●在籍生徒の多様化に伴い、進路指導の面においても個別的な配慮が必要なケースが増加し負担となっているが、職員間の協力のもと何とか対応している。
生徒指導	生徒の主体性の向上（自主・創造）	生徒会活動など、生徒が主体的に参加できる行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 行事等への参加率を前年度比10%増とする。 学校行事におけるマナーを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部の組織活性化を図る。 生徒が参加できる、参加したくなる行事内容へ工夫改善する。 生徒への周知徹底を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会執行部の人数が増加してきており、徐々に活動が活発になっている。 ○生徒会執行部を中心に各行事も活発になってきている。 ○11月末に研修旅行（バス旅行）を実施した。開催日程や職員の引率等課題はあるものの、参加した生徒には大変好評であったようである。
	法令遵守と規範意識の向上	法律やマナーを守る意識、規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 特別指導件数を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内外の巡回を強化する。 関係機関との連携を強化する。 内規の見直しを適宜行う。 生徒や家庭への周知徹底を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○前期にスクーリング時の巡回を定期的実施したが、後期からはそれに加えて毎時間ごとに全職員（ローテーション）で校内巡回を実施した。 ○特に警察との連携を密にした。 ●内規については、本校の現状と社会情勢等を十分考慮しながら進めている。 ●特別指導（問題行動）は本年度13件のべ17名（昨年度と同等数）であった。生徒数は増加しているため、発生割合は減少している。今後は転・編入時の本人や保護者への法令遵守や規範意識についての周知徹底等も必要であると考えられる。
いじめの防止等	いじめ等の問題行動の未然防止等	生徒指導・年部を中心に組織的対応の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の全体調査及び個人面談実施 	<ul style="list-style-type: none"> 調査内容を職員全体で情報共有し、いじめを許さない雰囲気醸成。 定期的な担任面談巡回指導、登校指導等徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●12月に実施した「心のアンケート」で、1件のいじめ事案があった。学年部を中心に聞き取り調査を行い、いじめ防止対策委員会でいじめと認定された。現在、解消に向けて取り組んでいる。

人権教育推進 ～道徳性と豊かな情操～	互いを尊重する人権教育の推進	他者の考えを理解し共感する能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・校内生活体験発表会や定通文化大会への前年度以上の参加率の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会の趣旨や参加することの意義について、生徒に伝えていく。 ・LHR等を活用。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の生活体験発表会は、各学年から代表生徒が発表し、多くの生徒が、発表者の生き方と自分の生き方とを重ね、しっかりと受け止めていた。
	命を大切にすることを育む指導	全ての教育活動を通じた、生徒・職員の自他尊重の感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重を基盤にした授業、特別活の実施 ・職員の人権感覚と実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った生徒向け講演実施 ・啓発資料の発行し活用していく。 ・全職員による校内外研修参加を計画的に実施する。また、研修後の情報共有を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育講演会では、LGBTQに関するビデオを視聴し、LGBTQについて正しく理解するとともに、自分の中の様々な差別意識に気づき、自ら進んで差別を無くして行こうとする姿勢の大切さを学んだ。 ○年間を通して、校外研修への一人1回の参加を実施し、全職員で人権意識の向上を目指した。
生徒理解及び生徒支援	生徒相談 生徒理解の充実	学級の枠を超えて学校全体で相談できる体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・半期1回以上の個人面談の実施 ・生徒理解研修の充実 ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全メールを活用し、生徒、保護者への相談窓口を周知する。 ・生徒全員の定期的な担任面談実施。 ・生徒理解研修を年2回実施し、生徒情報共有する。 ・職員とスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの情報共有 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全生徒へスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの相談窓口を周知させるため、保健便り、安心・安全メールやホームページで呼びかけを行った。 ○生徒理解研修を前期1回、後期1回実施し、生徒情報を共有し、配慮の必要な生徒の理解と適切な対応に役立てた。 ●特別支援教育と連携していく。 ●後期の後半になり、配慮を要する生徒の情報が分かることがあった。担任面談の充実や、職員のスキルアップ研修などを計画実施していく。
	特別支援教育の推進	特別支援教育推進委員会の充実 (生徒情報の把握、理解、支援について協議)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な個性・特性のある生徒の理解 ・協議の上、対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育推進委員会(月1回)を開き、各学年の生徒情報を共有・支援を検討する。 ・関係校、関係機関と密に連携する。 ・個別の教育支援計画・指導計画を立案し作成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育委員会は月1～2回に定期的実施し、2月で計10回実施した。生徒の情報共有、支援の検討を行った。 ○個別の支援計画、指導計画は担任へ切を設定し項目ごとに入力依頼をした。学年ごと各担当の先生に内容の確認をしていただき、保護者との面談、情報共有を徹底した。現時点での作成分96人 (R6.1.24) ●生徒の心身の状況をすべて把握することはできておらず、出来事等が起きて、診断や病

						状を知ることになった。
		特別支援教育 支援員の活用 を含めた学校 全体の支援体 制の充実	支援対象生徒 とその周囲の 生徒がともに 安心できる環 境整備（理解 推進・職員の 対応力向上）	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議（不 定期）を実施・ 充実させる。 ・対象生徒や保護者 に寄り添い、支援 をしていく。 	A	<p>○ケース会議は5～6人の生徒 について不定期に実施した。外 部でのケース会議は2回実施 した。</p> <p>●各クラスで支援の必要な生徒 を、学年、委員会を通して情報 共有し、担任と連携していく。</p>
地域と の連携 （コミュ ニティ・ス クール など）	熊本地震 や令和2 年7月豪 雨の教訓 を踏まえ た、防災 意識向上 と地域連 携の強化	防災意識の向 上及び地域と 一体となった 災害時の連携 体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連 携を強化し 避難所運営 に向けての 準備 ・防災に関し て生徒・保 護者へ啓発 ・三課程で情 報共有し対 策を統一 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練に向 けて職員の防災 意識向上。 ・コミュニティ スクールの一層 の充実。 ・各教科の学習 内容に関連した 防災教育の展 開。 ・防災関連情報 チラシの年間定 期発行。 	B	<p>○ぼうさい通信の定期的な発行 により、職員と生徒の防災意 識の向上に貢献した。</p> <p>●避難訓練について、多くの生 徒が参加し充実したものとな るよう、入念に準備を行う。</p> <p>避難訓練の参加者は、昨年より も12名増加し滞りなく行うこ とができた。</p>
	保護者との 連携	生徒・保護者 職員間の共通 理解の深 化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習 状況につい ての情報の 共有。 ・保護者会・ 担任面談の 充実。 ・保護者に信 頼され、相 談のしやす い体制作り 。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心メールを活用 した保護者への 通知、連絡。 ・早くからの出席の 呼びかけ、面談の 際に具体的な話 をするための、担 任の準備。 ・相手の立場に立っ た、丁寧な文書の 作成や電話の対 応の実践。 	B	<p>○安心メールでの連絡と保護者 の確認の流れが定着した。</p> <p>○担任面談の時間は充実したも のとなり、保護者から「来てよ かった」との声もあった。</p> <p>●配付資料や電話応対等、さらに 相手の立場に立った対応に努 める。</p> <p>学校評価アンケートには、保護者 からの感謝の声が多くあった一 方、学校との意思の疎通がうまく いけないことを示す声もあ った。職員間での情報の共有と、 さらに丁寧に生徒、保護者と関わ る姿勢を意識する必要がある。</p>

4 学校関係者評価

- (1) 部活動の活発化は学校の魅力の一つになる。できるだけ多くの生徒に部活動に所属してもらうため、「ゆる部活」を勧めたい。
- (4) 地域の行事では生徒に参加してもらい感謝している。その中で卒業生が学校に関心を持ち、生徒と一緒に活動している姿を見てとても良い学校だと思いました。
- (3) いじめ対策についてはアンケートや、生徒の様子をよく観察することで早期発見、早期の解決に結び付けてもらいたい。また、生徒に信頼される対応をしてほしい。

5 総合評価

- (1) 8つの大項目に設定した「29の評価の観点」において、A評価→6、B評価→23 C評価→0 D評価→0の結果から、学校評価目標は概ね達成できたと考える。
- (2) 大項目「学校経営」の小項目「スクールミッション及び教育重点目標が示す『資質・能力』の育成」では、スクールミッションに示した「自己管理能力」の育成を職員および生徒が意識することができた。結果、全ての学年において、目標進級率を上回ることができた。
- (3) 大項目「学力向上」では、主体的・対話的で深い学びの実践に向け、全職員の共通理解のもと授業改善を進める事ができた。生徒からの「スクーリング感想」は、「学ぶことが楽しい」と好評の感想が多く寄せられた。
- (4) 大項目「キャリア教育」の小項目「進路決定率の向上」では、各大学、専門学校への合格や就職内定を達成することができた。
- (5) 学校評価アンケートは、1項目（学校行事）を除き、教育活動への取組意欲・満足度等が高かった。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 大項目「学力向上」小項目「生徒の自己管理」のレポートの提出率は昨年より数値が下がった。各学年の進級単位取得に向け、標準単位よりも多く教科・科目の履修計画を組むようにしていることも一要因として考えられる。
- (2) 生徒・保護者・教師の三者アンケートで質問項目「学校行事等への積極的参加」の回答が、昨年同様低い。特別活動参加への意識改革が生徒・教師共に必要である。